

# 平成23年度環境技術実証事業検討会

## 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野

### ワーキンググループ会合(第2回)

#### 議事要旨

---

1. 日時：平成24年3月21日(水) 14:00～16:00

2. 場所：主婦会館プラザエフ コスモス

3. 議題

- (1) 実証試験結果報告書の検討について
- (2) 実証試験要領の見直しについて
- (3) その他

4. 出席検討員：藤田正憲(座長)、岡田光正、徐開欽、名取眞、宮腰智裕  
事務局：環境省、財団法人日本環境衛生センター

5. 配布資料

資料1 平成23年度環境技術実証事業検討会小規模事業場向け有機性排水処理技術  
ワーキンググループ会合(第1回)議事概要(案)

資料2 平成23年度環境技術実証事業小規模事業場向け有機性排水処理技術分野  
実証試験結果報告書(案)(委員限り)

2-1 余剰汚泥減量システム「オーディライト」(オーディライト溶解器と専用薬  
剤オーディライト T-200) / 四国化成工業株式会社(大阪府環境農林水産総合  
研究所)

2-2 大型フライヤー洗浄用 油水分離回収機グリス・ECO 850-850MFP / 株式会  
社大都技研( (社) 埼玉県環境検査研究協会)

2-3 複合ビル内無休店舗用 シンク型油水分離回収機グリス・ECO DS-2  
750-600W / 株式会社大都技研( (社) 埼玉県環境検査研究協会)

資料3 新たな環境技術実証事業の実施体制について

資料4 拡大ワーキンググループの実施報告

資料5 小規模事業場向け有機性排水処理技術実証試験要領の見直しについて(案)

資料6 平成24年度環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野  
実証試験要領(案)

資料7 今後のスケジュール(案)

参考資料1 平成24年度環境技術実証事業実施要領

## 6. 議事

会議は公開で行われた。

### (1) 実証試験結果報告書の検討について

実証機関から資料2に基づき、実証試験結果報告書（案）について説明。

- ・ “余剰汚泥減量システム「オーディライト」”については、体裁を整えるなど若干の修正が必要ではあるものの、技術の科学的根拠まで追求した報告であるとの意見があった。ただ、よりユーザーにもわかりやすいデータ報告とするためには、経費に関する情報を参考情報やカタログ等に盛り込むなど検討することが大切であることを、実証機関から実証申請者に提案してほしいとの指摘があった。
- ・ “大型フライヤー洗浄用 油水分離回収機グリス・ECO 850-850MFP”については、流入水の水温情報を解る範囲で盛り込むなど、細かい修正は必要であるが、明解な結果であり概ねよいとの意見があった。
- ・ “複合ビル内無休店舗用 シンク型油水分離回収機グリス・ECO DS-2 750-600W”については、処理水の実測値はあるため、これらをベースに除去効率の表記方法について実証した結果に基づき誤解のないように明示する工夫をする必要がある、との指摘があった。
- ・ 3 技術とも、細かな修正等が必要であるが、ワーキンググループとしては概ね了承することとされた。

### (2) 実証試験要領の見直しについて

事務局（環境省）から資料3に基づき、平成24年度環境技術実証事業 事業実施体制について説明。

事務局から資料4、5、6に基づき、実証試験要領の見直し（案）について説明。

- ・ 次年度に本環境技術実証事業が新体制に移行される点について、情報共有がなされた。
- ・ 小規模事業場、あるいは日排水量 50m<sup>3</sup> 未満という括りについては、今後の技術の国際展開を見据える上でも撤廃し、実証対象技術については、申請時に実証機関及び検討会において本分野への適合性について十分に審議することが望ましいとされた。
- ・ 特定の汚濁物質除去技術や有価物の回収技術についても実証対象技術としていることを明確にするため、実証試験要領内の文言整理を行うことが、了承された。
- ・ 有価物の回収技術、水の再生利用技術など、処理技術にとどまらない技術が既に実証される段階になっており、今後の技術展開、国際化を考えると、有機性排水処理の「処理」という語句をどのように扱うか、検討していく必要がある、との指摘があった。

(3) その他

- ・今回の会合については公開であり、議事要旨についてはホームページに公開することが了承された。

以上

(文責：環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり)